

金沢工藝本

金沢工藝普及推進協会

Vol.4

金沢工藝本

Vol.4



加賀友禪
Kaga Yuzen dyeing



金沢漆器
Kanazawa lacquerware



金沢九谷
Kanazawa Kutani ceramic ware



金沢箔
Kanazawa gold/silver leaf



加賀繡^{ぬい}
Kaga embroidery



金沢仏壇
Kanazawa Buddhist altars



希少伝統工芸
Rare traditional crafts

Kanazawa Traditional
Arts & Crafts
2009

【発行・編集】

金沢工藝普及推進協会
〒920-0962 金沢市広坂1-2-25
Tel:076-265-3320 / Fax:076-265-3321
E-mail:info@crafts-hirosaka.jp
<http://www.crafts-hirosaka.jp>

【編集協力】

協同組合加賀染振興協会／金沢漆器商工業協同組合
金沢九谷振興協同組合／石川県箔商工業協同組合
石川県加賀刺繍協同組合／金沢仏壇商工業協同組合

【取材・撮影協力】

金沢市
株式会社 エデュウス
合資会社 村上製菓所

【編集制作】

ヨシダ印刷株式会社

金沢工藝普及推進協会

KANAZAWA



[2009 vol.4] 平成21年1月発行

時代は支流を求め、
されど主流なくして支流なし

金沢には伝統工芸と呼ばれる技術、
分野が数多く存在します。加賀象嵌も
そのひとつです。それぞれの伝統工芸に
は、「本流」が存在します。加賀象嵌
なら武器・調度品を作るための技、加
賀友禅なら着物の染めの技、九谷焼な
ら器に映える五彩の技がそれです。本
流は我々が忘れてはならぬ伝統工芸
の本分です。しかし同時に時代の変化、
市場のニーズをにらみながら、本流か
ら分けて流れる「支流」を生み出して
いくことも重要です。加賀象嵌で具体
的な例をあげるならば、定番の香炉を
アレンジした「香の器」というアロマポ
ットなどがあります。

伝統とは本来、
進化し続けるもの

新しい支流を生み出すためには作り

手としてアンテナを高く張りめぐらす
必要があります。私は加賀象嵌に出会
う前、電器メーカーに商品デザイナー
として勤めていた経験があります。ド
ライヤーやシェイバーなどをデザインし
ていたのですが、机に向かつてモノのか
たちを考えるだけでなく、住宅も見れ
ばインテリアも見ました。自分がデザ
インしようとするモノが、どんな場所
でどんなものと一緒に使われるかを知る
ためです。これは加賀象嵌の世界に身
を置く今も何ら変わりのない姿勢です。
私自身の制作活動について言います
と、伝統工芸を作るのではなく、加賀
象嵌の本流を受け継ぎつつも常に新し
いものに挑戦するという気概で向き合っ
ています。伝統工芸とは後世の人がそ
う認め、そう呼ぶものであり、本来は
進化し続けるものだと思います。

堂々たる本流、^{ほとぼし} 逆る支流 伝統工芸の大河は かく流れる

重要無形文化財「彫金」保持者 中川 衛
National living treasure "chasing" 中川 衛

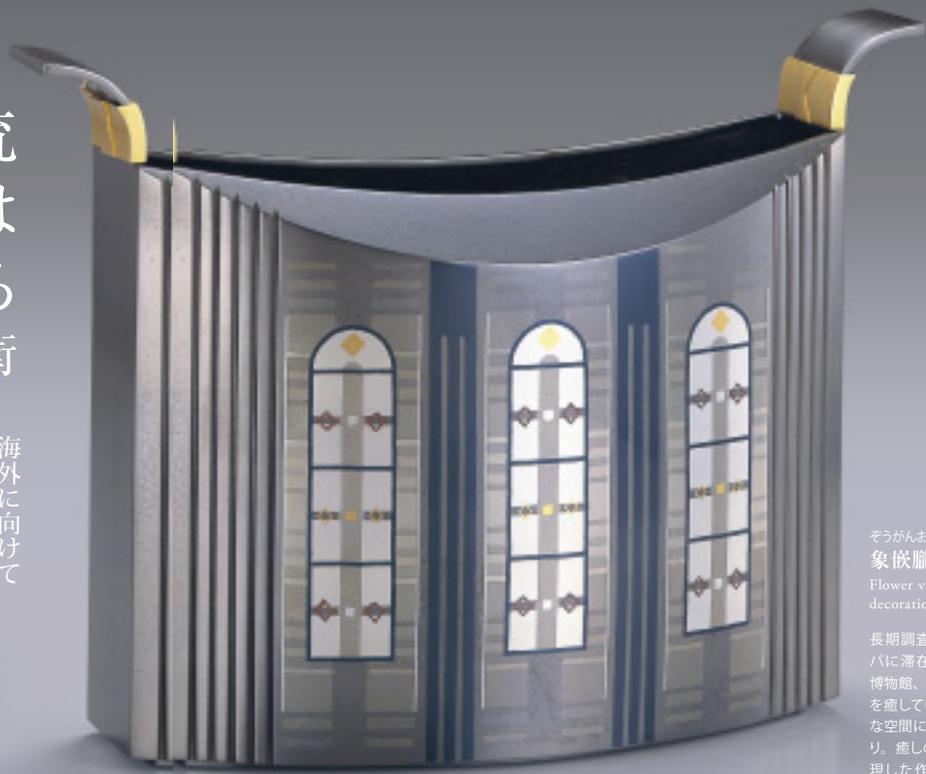
海外に向けて
加飾の技を発信していくべき

先日ニューヨークの展覧会に出品する機会
がありました。現地の美術品コレクターら
は日本の伝統工芸に非常に理解を示して
くれました。彼らは加賀象嵌の作品を見てま
ず「なんと美しいのか」「癒しを感じられる」
と賞賛し、次に必ず「加飾にどんな技を使
っているのか」と尋ねてきます。伝統工芸の
技、あるいは工業製品の技術というものを高
く評価する土壌があるのです。金沢の伝統工
芸は加飾という点に集約することができます
が、その技に焦点をあてて海外に発信するこ
とは、非常に意味のあることだと思います。



中川 衛
Mamoru Nakagawa

1947年生まれ。1974年高橋介州に師事。1979年日本伝統工芸展初入選。1982年日本工芸会正会員。1996年金沢美術大学教授。2004年重要無形文化財「彫金」保持者（人間国宝）認定。



そうがんおほろざんかき まどあかり
象嵌彫銀花器「窓明」
Flower vessel of rōgin with inlay
decoration "Window light"

長期調査や研究のためヨーロッパに滞在していた頃、美術館や博物館、モスクなどを訪れ、疲れを癒していた込め柔らかな窓明かり。癒しの心象風景をモダンに表現した作品である。平成20年、日本伝統工芸展出品作。

〇〇二 重要無形文化財「彫金」保持者 中川 衛

〇二八 金沢九谷

〇〇一 象嵌龍銀花器「窓明」

〇二八 「赤絵秋草5寸皿揃」(5枚組)

〇〇〇 「松竹梅」合徳利/盃(赤・緑) 「更紗文様 8寸輪花皿」

〇〇六 加賀友禪

〇〇七 訪問着「松皮取り梅格子」

〇〇二 「小紋6.3寸梅皿揃」(5枚組) 「更紗文様 冷酒グラス」

〇〇八 畀留袖「松竹梅」

〇〇三 「香炉六角梅文様/赤絵竹文様/加賀文様」

〇〇九 色留袖「梅園」

〇〇三 「マグカップ 加賀文様」 「組湯呑 加賀文様」

〇一〇 訪問着「桃源」

「角/丸小皿揃色変わり竹文様」(5枚組) 「

〇一一 「三曲一双 背面部加賀友禪椅子」

〇二四 金沢箔

〇二二 金沢漆器

〇二二 「鼓胴花生」

〇〇六 「樺皮 加賀小紋小皿菊」

〇二四 「加賀獅子舞蒔絵 平棗」

〇〇八 杉板絵「鯉の図」

〇二五 「茅の輪蒔絵飾り盆」

〇〇九 銀箔アート箔額装「冬の兼六園」

〇二六 「秋草蒔絵 半月銘々皿」(5枚組)

〇三〇 箔一オリジナル「ストライプ三段重」

〇二七 「四季絵変わり銘々皿」(4枚組)

〇三二 箔座オリジナル祝い紋「結び鶴梅ばつきん箸」

〇三二 加賀織

〇三三 数寄屋袋「寄せ葉牡丹/羽衣松」

〇四六 茶の湯釜「霰真形釜」

〇三四 包み帛紗「熨斗目/椿/梅と松」

〇四七 象嵌香炉「牡丹」

〇三五 「道行コート」

〇四八 桐工芸「ちよことトレイ 千鳥」

〇三六 古帛紗「瓢箪/松喰い鳥/雪」

〇四九 桐工芸「天然火鉢」

〇三七 「紅白椿の香合」

〇五〇 金沢伝統工芸 ショッピングガイド

〇三八 金沢仏壇

〇三八 「木爪型五福掛ミニ仏壇」

〇五四 金沢伝統工芸 ショッピングマップ

〇四〇 「大賀一号」(70代)

〇四一 「大賀三号」(70代)

〇四三 「新デザイン一号」(70代)



食環境プロデューサー・
経済産業省伝統工芸品
産業構造審議会委員

木村ふみ
Fumi Kimura

東京都生まれ。食環境プロデューサー。大学で美術史を専攻。卒業後、ニューヨーク及びロンドンでフローラルデザインを学ぶ。その後、テーブルセッティング及びカラーコーディネート学ぶ。ホテル、レストラン、旅館、料亭のテーブルコーディネートに留まらず、トータルな食環境プロデューサーとして活動。経済産業省伝統工芸品産業構造審議会の委員であり、平成19年・20年と金沢市主催のおしゃれメッセ工芸コーディネーターを務めた。

加賀友禪作家 毎田 健治 作

Kaga-yuzen artist Kenji Maida

訪問着「松皮取り梅格子」

Visiting kimono with a design of plum blossoms and other flowers

ショップ No. 1 (加賀友禪伝統産業会館) P50 [マップ P54]

Kaga Yuzen Traditional Industry Center

加賀友禪の第一人者だった父・仁郎氏に師事し、天性の感覚で頭角をあらわした毎田健治氏。若々しい色調で四季の花を贅沢に描いた訪問着は、背景全体に大胆に入れた格子が、華やかな柄行をいっそう引き立てている。

Elaborate dyeing technique for the ultimate in elegance

Kaga Yuzen dyed silk, which is characterized by a finely detailed realism and elegant colors, depicts living things and natural beauty. Manufactured by experienced artisans through extremely complicated and elaborate handiwork processes, its elegant beauty has been handed down through the generations since the time of its originator, Miyazaki Yuzensai. Today it is still the ideal fabric for women's attire for auspicious and formal occasions.

加賀友禪

かみゆうぜん

気品の中に、染めのこころが生きている
生きとし生けるものの鮮やかな色、形を絹の上に表現した加賀友禪。図案から始まる複雑な製作工程は、すべて職人たちによる手仕事だ。その気品に満ちた美しさは、宮崎友禪齋の時代から現在に至るまで、晴れやかな日に美しく装いたいという女性たちの願いをかなえている。

KAGA YUZEN DYEING



加賀友禅作家 浅野 富治男 作
Kaga-yuzen artist Fujio Asano

色留袖「梅園」

Colored formal kimono with a design of plum-garden

ショップ No. 11 (加賀友禅伝統産業会館) P50 [マップ P54]

Kaga Yuzen Traditional Industry Center



可 憐な形や芳香、独特の枝ぶりが詩歌に詠まれるなど、古くから日本人の心を魅了してきた梅。寒い冬にいち早く花を咲かすことから生命力の象徴として「めでたきもの」とされ、着物や工芸品にもしばしば描かれている。この色留袖は、金沢の兼六園と並んで日本三名園のひとつに数えられる水戸の偕楽園の梅をイメージしたもので、華やかな中にも落ち着いていた風格があり、ハレの日に礼の心を表すに相応しい着物といえる。

図案の作成から下絵、彩色を一人で手掛ける加賀友禅は、分業制の京友禅に比べ作家の個性が出やすい。浅野氏の作品は、奥行き感のある構図と、水彩のようなふわりのした筆づかいに特徴が出ている。

加賀友禅作家 鶴見 保次 作
Kaga-yuzen artist Yasutsugu Tsurumi

黒留袖「松竹梅」

Black formal kimono with a design of pine, bamboo and plum

ショップ No. 11 (加賀友禅伝統産業会館) P50 [マップ P54]

Kaga Yuzen Traditional Industry Center



日 展会員でもある加賀友禅作家・鶴見保次氏による黒留袖。丸味があり優しい印象の筆致で、「松竹梅」という日本の古典的な吉祥文様を描いている。流れるような動きのある裾模様は、黄土を背景に全体的に渋い色調で仕上げられており、ミセスの第一礼装に相応しい品格と美しさを備えている。

鶴見氏は、宮崎友禅齋とともに加賀友禅の興隆に貢献した加賀藩御用達染物業・太郎田屋の家系に生まれ、金沢美術工芸大学で日本画家の下村正一氏に師事。一九七六年に金沢市工芸展に初入選して以来、多数の受賞歴を持つ加賀友禅界の重鎮である。東京での長い修行経験から、その作風には琳派(りんぱ)絵画の影響が色濃く感じ取れる。

加賀友禅作家 宮野 勇造 作
Kaga-yuzen artist Yuzo Miyano

訪問着「桃源」

Visiting kimono with fairyland design

シヨップ No. 11 (加賀友禅伝統産業会館) P50 [マップ P54]

Kaga Yuzen Traditional Industry Center



陶

淵明の著「桃花源記」より、世俗を離れた平穏な別天地のことを桃源と呼ぶ。色とりどりの花が咲き、鳥が歌う理想郷を一枚の絹の上に描き出したのがこの訪問着。加賀友禅作家・宮野勇造氏の内なる世界が、丹念に表現されている。

線の太さや微妙なぼかし、意匠化した花でアクセントをつけつつ、藍・臙脂(えんじ)・黄土・草・古代紫の五彩を基調とした暖かな色彩をさしていく。花卉や葉は、一枚一枚の濃淡を細部まで丁寧に仕上げであり、作家の熟練の技術とセンスが感じられる優品である。

上前に描かれた橋を渡った先に桃源があるのだろうか。ストーリー性を感ずることができる着物は、着る人の心と社交の場をいっそう豊かにしてくれる。

花

鳥風月を描いた加賀友禅は、衣桁(いこう)にかけ日本

画として鑑賞しても心楽しいもの。その魅力を活かして加賀染振興協会が提案するのが、並べると二枚の絵になるようデザインされたこの椅子である。図案、彩色を手がけたのは新進気鋭の友禅作家山田武志氏。繊細な加賀友禅の筆致と絹のやさしい質感が、晴れやかな席に相応しい気品を醸し出している。

春夏・秋冬で二柄、四季で四柄、各月で十二柄など、季節感あふれる図柄によるオーダーメイドが可能。生地は取り外すことができるので、着物同様、衣替え、したり、夏は絹(こ)・紗(しゃ)などで透け感を出しても良い。写真のタイプのほか、スツールタイプの製作にも対応している。

加賀友禅作家 山田 武志 作
Kaga-yuzen artist Takeshi Yamada

「三曲一双 背面部加賀友禅椅子」

Set of chairs with Kaga-yuzen design

H1200 × W350 × D350mm

シヨップ No. 11 (加賀友禅伝統産業会館) P50 [マップ P54]

Kaga Yuzen Traditional Industry Center



金沢漆器

かなざわしつぎ

貴族文化の優美さと武家文化の力強さが宿る

金沢漆器の歴史は、加賀藩三代藩主前田利常公が、桃山文化を代表する高台寺蒔絵の作家・五十嵐道甫を京から指導者として招いたことに始まる。その後、貴族文化の優美さに武家文化の力強さが加わった独特の漆工芸として確立し、現在でも茶道具を中心に一品制作の美術工芸品が制作されている。



伝統工芸士 福嶋 一恵 作
Master of traditional crafts Ichie Fukushima
つづみどう

「鼓胴花生」

Hand-drum-shaped gold lacquered vase

φ 95 × W255mm ¥315,000

ショップ No. 6 (能作) P50 [マップ P55]
NOSAKU

初代清瀬一光氏のもとで研鑽を積んだ福嶋一恵氏による海松貝（みるかい）を描いた花生。図案や技術は加賀蒔絵の正統を引き継ぎつつも、鼓の形を模したフォルムが斬新。花生という定番品でありながら驚き遊べる存在感を放っている。

KANAZAWA LACQUERWARE

The elegance of aristocratic culture and the dynamism of samurai warrior culture

Production of Kanazawa lacquerware started around the 16th century, when the third lord of the Kaga clan, Toshitsune Maeda, invited a prominent lacquerware artisan from Kyoto to teach his craft in Kanazawa. The unprecedented beauty of this lacquerware results from a combination of the elegant culture of nobles and the dynamic culture of warriors. Today, the Kanazawa lacquerware technique is used to produce various utensils, including implements for the tea ceremony.



伝統工芸士 御前 邦夫 作
Master of traditional crafts Kunio Misaki
「加賀獅子舞蒔絵平棗」
Jujube-shaped tea case with lion-dance design
φ 80 × H55mm ¥84,000
(金沢漆器商工業協同組合)

金 沢漆器商工業協同組合で
は、金沢の十二月の風物
詩を描いた棗を創作している。写
真は神無月の平棗。「加賀獅子舞」
に題材を求め、伝統工芸士である
御前邦夫氏が躍動感あふれる一場
面を鮮やかに描き出している。
加賀獅子舞は一向一揆の民が加
賀の国を治めていた頃から存在し
たとされる民俗芸能である。加賀
藩初代藩主前田利家公が金沢城に
入城した際に祝いの獅子舞が盛大
に行われて以来、城下各町で町の
守護として獅子頭を持ち、祭りや
お祝いごとがあるたびに獅子舞が
練り広げられたという。同シリー
ズでは友禅流しや寺町松月寺の大
椀などの棗も揃う。お茶席に金沢
ならではの季節感と遊び心を添え
てみてはどうだろうか。

お問い合わせ：金沢漆器商工業協同組合（金沢商工会議所内）TEL.076-263-1157
Inquiries: Kanazawa Lacquerware Manufacturers Cooperative Association
(c/o Kanazawa Chamber of Commerce and Industry) Tel.076-263-1157

「水 無月の夏越しの祓いをする人は千歳の命仲ふといふなり」。

「茅の輪くぐり」は古歌にも詠まれている夏越しの神事である。日本各地の神社で六月の晦日に行われ、茅で作られた大きな輪をくぐることで正月から半年間の罪と穢（けがれ）を祓（はら）い、大晦日までの半年を無病息災で過ごせるよう祈願する。

写真は、金沢漆器商工業協同組合が企画したもので、兼六園の季節の風景を蒔絵で描いた飾り盆シリーズの中から一品。兼六園の隨身坂口に位置する金沢神社の茅の輪くぐりをモチーフにしており、螺鈿（らでん）で丹念に表した瑞々しい紫陽花（あじさい）が、作品に奥行き感を醸し出している。菓子を盛るほか、季節の調度として飾つても楽しめる。

伝統工芸士 高田 光彦 作
Master of traditional crafts Mitsuhiko Takada
「茅の輪蒔絵飾り盆」
Lacquer tray with thatched-ring design
φ 240 × H20mm ¥84,000
(金沢漆器商工業協同組合)



レの日に華を添える、絵変
 わりの銘々皿。春は「桜と鳥」、
 夏は「朝顔と蝶」、秋は「葡萄と鼠」、
 冬は「椿と目張り柳」と、春夏秋冬
 の一瞬の情景を切り取り、一枚の
 皿の上に鮮やかに描き出している。
 静と動が同居するモチーフの組み
 合わせ・構図も秀逸で、飾り皿と
 しても存在感を放つ。

蒔絵を手がけたのは清瀬一光氏
 に師事し、金の独特の使い方定
 評がある伝統工芸士の下出光斎氏。
 加賀蒔絵の伝統と技法を基に、鳥
 や鼠の毛並みから、花卉の光と陰、
 あるいは「わくらば(病葉)」の表現
 にいたるまで、筆を巧みに使い分け
 ある時は極細の線を描き、またあ
 る時は輪郭の中を塗り込み、緩急
 自在の描写を行っている。

伝統工芸士 下出 光斎 作
 Master of traditional crafts Kosai Shimode

「四季絵変わり 銘々皿 (4枚組)」

Small plates with patterns of the four seasons

W135 × D135mm ¥630,000

ショップ No. 7 (和幸) P50 [マップ P54]

WAKO



伝統工芸士 御前 邦夫 作
 Master of traditional crafts Kunio Misaki

「秋草蒔絵 半月銘々皿 (5枚組)」

Half-moon-shaped small trays with a design of autumn flowers

W150 × D135mm ¥94,500

ショップ No. 5 (石田漆器店) P50 [マップ P55]

Ishida Lacquerware Shop

日 本の伝統的な絵画や工芸品
 にはしばしば秋草が描かれ
 る。秋草には華やかさはないが静
 寂の趣があり、またやがてやってく
 る冬枯れの予感がある。四季の移
 ろいの中にはかない美を見出すの
 は、日本人独特の美意識だ。

こちらはおもてなしの席をさり
 げなく演出してくれる半月型の
 銘々皿。伝統工芸士である御前邦
 夫氏によるもので、桔梗と萩を上
 品な高蒔絵で表し、溜塗りの透明
 感も麗しい。

石田漆器店は明治二年より漆器
 の製造販売を行う老舗。北陸の風
 土が生んだ芸術品である漆工芸品
 を若い世代の人にも使ってもらいた
 いと、上質でありながらもクラフ
 ト的な要素のある日常つかいの漆
 器も幅広く提案している。



金沢九谷

かたぎわくたに

九谷五彩があやなす華麗な色絵世界

緑・黄・赤・紫・紺青の九谷五彩と呼ばれる色彩とともに、数々の技法と美の伝統を受け継いでいる金沢九谷。伝統的な技術を源流に持ちながらも、さまざまな陶芸のエッセンスを取り込み、時代のニーズや人々の嗜好の変化に合わせて柔軟な変化を遂げ、現在に至っている。

KANAZAWA KUTANI CERAMIC WARE

吉田 勝山 作
Shozan Yoshida

「赤絵秋草 5寸皿揃
(5枚組)」

Ceramic trays with a design of
red autumn flowers

φ 150 × H30mm ¥15,435

着物の小紋をイメージし、九谷焼の伝統的な表現手法である「赤絵」を用いて可憐な秋草を一面に散らした皿。小ぶりでも薄く、しっとりとした質感があり、和菓子だけでなく洋菓子との相性も良い。



Picturesque beauty in five brilliant colors

Kanazawa Kutani Ceramic Ware is made using traditional decorating techniques and five characteristic colors: green, yellow, red, purple and dark blue. While retaining its traditional techniques, the Kanazawa Kutani ware industry has been taking on the challenge of producing ceramic items that suit modern tastes, in response to people's changing needs.

お問い合わせ：金沢九谷振興協同組合（九谷焼 鎗木商舗内）TEL.076-221-6666

Inquiries: Kanazawa Kutani Ceramics Promotion Association (c/o Kaburaki Shop) Tel.076-221-6666

大兼政 花翠 作
Kasui Okanemasa

「小紋 6.3寸梅皿揃 (5枚組)」

Set of plates with plum design
φ 182 × H27mm ¥34,650



大兼政 花翠 作
Kasui Okanemasa

「更紗文様 冷酒グラス」

Sake glass with arabesque design
φ 52 × H110mm ¥6,300

川合 孝知 作
Takatomo Kawai

「更紗文様 冷酒グラス」

Sake glass with arabesque design
φ 52 × H110mm ¥5,250

佐伯 信平 作
Shinpei Saeki

「更紗文様 8寸輪花皿」

Large plate decorated with
arabesque design
φ 250 × H40mm ¥25,200



川合 孝知 作
Takatomo Kawai

「松竹梅 一合徳利 (赤・緑)」

Sake bottles with a design of pine,
bamboo and plum (red and green)
口φ 17mm, 胴φ 65 × H130mm 各¥4,200

川合 孝知 作
Takatomo Kawai

「松竹梅 盃 (赤・緑)」

Sake cups with a design of pine,
bamboo and plum
φ 48 × H36mm 各¥2,520

鏝

木商舗は一八二三年創業の老舗である。九谷焼が隆

盛を極めた明治期から大正期、商品の裏印に必ず「鏝木製」と入れ、商品に自信と責任を持つとの心意気を示した。現八代当主・基由氏はその「鏝木製」の復活を目指し、木村ふみ氏とのコラボレーションによって新たな商品群をプロデュースしている。多彩な食のシーンに対応できるよう、これまで色絵の脇役であった更紗や小紋を主役としたことが最大の特徴である。「工芸の形は必然の中で生まれてきたもの。現代に融合させるといっても必然性を無視すれば歪(いびつ)なものになる」とは木村氏の言。そのため器のサイズは使い勝手の良い昔ながらの寸法にこだわり、表示も「寸」で統一している。

木

村ふみ氏は伝統工芸のこれからのありようを世阿弥の「守破離（しゅはり）」の精神に喩えている。その意味はすなわち、「守り伝えられてきた形をまず踏襲し、その上で伝統を破り型にはまらない自由な発想を取り入れる」こと。金沢市片町に店舗を構える諸江屋とのコラボレーションにもその精神が活かされている。完成した商品は、女性の普段づかいを意識し、九谷焼らしい豊かな色づかいで加賀小紋を表現した「愛らしさ」のある器たち。小紋はもともと九谷焼の伝統文様ではあるが、間の取り方に斬新さが感じられる。

伝統を振り返りつつ、現代の暮らしに合わせた新しいものを発信していく。柔軟に変化し続ける九谷焼には常に新鮮な発見がある。

「マグカップ
加賀文様」
Mug with Kaga design
φ 88 × H95mm



「組湯呑 加賀文様」

His-and-her tea cups decorated with Kaga design

大: φ 80 × H77mm / 小: φ 75 × H70mm



「湯呑 加賀文様」
Tea cups with Kaga design
φ 78 × H90mm

「フリーカップ
加賀文様」

Cup with Kaga design
φ 85 × H110mm



「角小皿揃 色変わり 竹文様 (5枚組)」

「丸小皿揃 色変わり 竹文様 (5枚組)」

Square trays with bamboo design in various colors

Round trays with bamboo design in various colors

角小皿揃: H15 × W70 ~ 75 × D70 ~ 75mm

丸小皿揃: φ 80 × H20mm



中村 桐佳 作
Kirika Nakamura

「香炉 六角梅文様」

Hexagonal incense burner with plum design

φ 85 × H105mm



「香炉 加賀文様」

Incense burner with Kaga design

φ 125 × H70mm



堀川 十喜 作
Toki Horikawa

「香炉 赤絵竹文様」

Incense burner with red bamboo design

φ 75 × H92mm



金沢箔

かなざわはく

空間に、工芸に、深い輝きと華やかさを添える
 金沢箔の歴史は安土桃山時代に遡るが、明治以降、技術の高さや水質の良さから急速に発展した。現在、
さかのぼ 全国生産高のうち金箔は99%以上、銀箔・洋箔（真鍮箔）は100%が金沢産だ。深みのある輝きと「酸化しない、変色しない、腐食しない」という特性を活かし、多くの美術工芸品を飾っている。

KANAZAWA GOLD/SILVER LEAF

A gorgeous luster for both living spaces and works of art

The history of Kanazawa metal leaf goes back to the Azuchi-momoyama Period, and the industry developed rapidly in the 19th century as a result of technical progress and improvement in water quality. Today, 99% of gold leaf and 100% of silver and other types of metal leaf in Japan are produced in Kanazawa. Their beautiful luster and resistance to oxidation, discoloring and corrosion make them highly suited to the decoration of works of art.



寺本 健一 作
Kenichi Teramoto

「けやきがわ 樺皮 加賀小紋小皿 菊」

Trays made of zelkova bark with gold leaf decoration

H50 ~ 60 × W225 ~ 255 × D140 ~ 145mm

ショップ No. 18 (金銀箔工芸 さくだ) P51 [マップ P54]

Sakuda Gold&Silver Leaf Product example

※サイズ、箔の種類によって 10,500 円から 16,800 円までの商品があります。

大 正八年の創業以来、箔一筋の
さくだ。特に箔の屏風には定
評があり、ひがし茶屋街の入り口近
くに立地する店舗には、本金砂子（ほ
んきんすなご）細工の名品が所狭しと
並ぶ。

加賀小紋皿は木村ふみ氏のプロ
デュースにより生まれた作品で、樺
の皮に漆を塗り、伝統的な加賀小紋
柄の型の上から箔を手貼りしたもの。
コーティングを施しているので通常の
漆器と同様に水洗いもできる。あく
まで盛るものが主役で、皿はその引
き立て役だからと、金箔が主張し
ぎないよう巧みに引き算している点
に、職人のバランス感覚が光る。天
然木を使用しており一つひとつ表情が
異なるのも魅力だ。模様のパリエー
ションもあり、金箔のほかプラチナ箔
色箔を用いたものもある。

和菓子提供：村上製菓所

金

沢箔は経済産業大臣指定
の伝統工芸材料として、数
多くの国宝や国の重要な施設の修
復、また美術工芸品の材料として
使用されている。特に漆器を優雅
に彩るとき、金箔はその本領を発
揮するといえる。

「純金蒔絵十二支盃」は、一つ
ひとつ丹念に十二支が描かれた盃
のセット。蒔絵師の西出国彦氏は、
昭和二十年加賀市に日展作家の千
俣氏の三男として生まれ、岡沢起
幸氏、秤孝次氏に師事した漆芸家
だ。金箔で表現された干支は、ど
こか可愛らしさもあり心細む。外
側は木目の美しさをそのまま生か
している。コレクションとしても面
白いが、酒を交わす客人の干支に
合わせてお出しすると、おめでた
い席がよりいっそう華やかだろう。

蒔絵師 西出国彦 作
Lacquer artist Kunihiko Nishide

「純金蒔絵十二支 盃」

Gold lacquered sake cups with the twelve signs of the zodiac design

φ 60 × H30mm セット / ¥189,000 パラ / ¥15,750

ショップ No. 19 (金箔工芸 田じま) P51 [マップ P55]

Tajima Gold Leaf Craft



明

治三十一年創業の今井金箔の卓越した技術と、木村ふみ氏のアイデアのコラボレーション作品である。金泥を膠（にかわ）で溶いて塗り重ね、鯉の鱗の立体感を出している。色彩を備えた焼箔はあえて用いず、金一色で表現している点に、職人の侘びた美意識が感じられる。難やすきを描いた作品や、同シリーズで短冊形のものもあり、飾る季節と場所によって選ぶことができる。

杉板を金砂子や金泥で加飾する技術は日本古来の工芸・絵画技法であり、能が盛んな金沢では能舞台の背景にも杉板絵が用いられている。新しさを追求するのではなく、和の伝統的な技やモノを今の暮らしにどう取り入れるかを提案すること。それが今井金箔のスタンスだ。

建

建築物や美術工芸品などに優雅な輝きを添える金箔。それを可能にしているのが、金を一万分の一ミリにまで薄く延ばす箔打ちの技術である。それだけでも究極の技術といえる薄い純金箔の上に、絵柄を浮き出させる技術を開発し、「アート箔」として特許を取得しているのがカタニである。作品に目を近づければ、箔表面に艶消と光沢の部分があり、そのコントラストで絵柄を表現していることが分かる。

カタニでは雪吊りなど金沢らしい風物を映したアート箔を額装して販売しているほか、要望に応じてオリジナル額の製作にも対応している。記念写真や自作のイラストを、絵画とはひと味違う豪華な雰囲気を持つアートな作品に仕立ててみてはどうだろうか。



銀箔アート箔 額装「冬の兼六園」

Silver leaf art frame depicting Kenrokuen Garden

H121 × W121 × D24mm ¥60,000 ~

ショップ No. 17 (かなざわカタニ) P51 [マップ P54]

Kanazawa Katani



杉板絵「鯉の図」

Cedar art frame with carp design

W310 × D310mm ¥22,000

ショップ No. 16 (今井金箔) P51 [マップ P54]

Imai Gold Leaf

箔座オリジナル祝い紋

HAKUZA original

「結び鶴梅ばっきん箸」

PAKKIN-BASHI chopsticks with gold leaf (Musubi Tsuru-ume)

¥525 (ケースに2膳入、メッセージカード付)

ショップ No. 21 (箔座本店) P51 [マップ P54]

HAKUZA Honten (main store)



※ 30 膳からのご予約販売となります。



金

は古くから身を守り幸運を呼ぶものとして珍重され

るとともに、殺菌・解毒作用があると考えられ食材・漢方・化粧品などに使用されてきた。金沢ではお茶やお酒に金箔を浮かべて楽しむことも多い。金の豪華な彩りとともに、お祝いの席やパーティーにふさわしい華やかなサブライズが添えられると話題を呼んでいるのが、箔座の「ばっきん箸」である。箔座オリジナルの祝い紋「結び鶴梅」をあしらったプチギフトシリーズのひとつで、お料理の上で割ると、金箔が花びらのようにふわり舞い散る。食用金箔そのものに特に味はないので、和洋を問わずどんな料理にもトッピングできる。お料理に「箔がつく」と、遊び心も効いてくる。

※ ばっきん箸は箔座の特許商品です。

箔一オリジナル

HAKUICHI original

「ストライプ三段重」

Stripe square box

H110 × W160 × D160mm ¥73,500

ショップ No. 20 (箔一本店 箔巧館) P51 [マップ P54]

HAKUICHI main store: HAKUKO-KAN



日

本には暮らしの中で育まれてきた昔ながらの“尺寸”

というサイズ感覚がある。この三段重は、木村ふみ氏が伝統的な寸法に内包される機能美に焦点を当ててプロデュースしたものだ。やや小ぶりでお料理を盛りやすく、手に取ってもしっくりなじみ、収納の面でもメリットがある。古い時代の宝石箱に着想を得て製作したこともあり、お重としては浅いところが新鮮だ。デザイン面では箔一が得意とするモダンなセンスが光り、箔と螺鈿とのコントラストが目を引き。

重箱はハレの日の器として日本の行事に欠かせない器である。お料理を盛りつけるほか、菓子器やプリザーブドフラワーを飾る花器などとしてオールマイティに活用したい。

伝統工芸士 森本 悦子 作

Master of traditional crafts Etsuko Morimoto

数奇屋袋「寄せ葉牡丹／羽衣松」

Hand bags; black bag with peony design and pink bag with pine design

H35 × W215 × D145mm 各 ¥12,600

ショップ No. 28 石川県加賀刺繍協同組合 (小林刺繍舗内) P52 [マップ P54]

Ishikawa Prefecture Kaga Embroidery Association

木村ふみ氏提案による吉祥紋を入れた数奇屋袋。古典的な紋がかえって新鮮な雰囲気を出している。寄せ葉牡丹は黒の縮緬（ちりめん）地、羽衣松は淡いピンクの帯地。多彩な繻いの技法を組み合わせ、模様をふっくらと描き出している。

Religious faith in every stitch

Embroidery was originally introduced to Japan from the Asian Continent as a method of representing the image of Buddha on cloth. It was brought to Kanazawa in the Muromachi Period for the decoration of cloth used for Buddhist altars and monks' clothing, and subsequently the handicraft of Kaga embroidery was established. Kaga embroidery is characterized by a minute technique that produces a raised surface for a stereoscopic effect. It has been valued since the Edo period as a means of decorating kimonos and other goods.

K A G A E M B R O I D E R Y



ひと針ひと針、刺繍に託す祈りのこころ
刺繍は古くは「繻い仏」と呼ばれ、仏の姿を描く方法として大陸からもたらされた。室町時代の金沢にも、仏前の打敷や僧侶の袈裟の装飾技術として伝わり、加賀繻として定着した。図柄を立体感に見せる繊細な技術が特徴で、江戸時代以降は、着物や帯、小物に施され、愛されている。

加賀繻

かがぬい



包み帛紗ふくさのしめ「熨斗目／椿／梅と松」

Crape wrappers with embroidery

W200 × D130mm 各 ¥9,975

ショップ No. 24 (小林刺繍舗) P52 [マップ P54]

Kobayashi Embroidery

明 治四十五年からの歴史を持つ小林刺繍舗は、伝統の技法を踏まえつつ、新しいものに意欲的に挑戦している老舗である。

加賀繡は技法の面では、写実的な表現を可能にする「ぼかし繡」、立体感をつける「肉入れ繡」が特徴である。糸は金糸や銀糸に加え千色前後もの色糸を使う。足りない色があれば、糸染めから手がけることもある。さらに同じ色の糸でも生地によって発色が異なるため、伝統工芸士の資格を持つ職人も「いくらやっても、これで良い」という事がない」と日々研鑽を積む。日本では古くからご祝儀は帛紗に包んで渡すのが礼儀とされている。奥ゆかしさと品格を感じる風習に、加賀繡をアクセントにした帛紗はよく似合う。

室

町時代、仏前の打敷や僧侶の袈裟を飾る技術として京都から伝えられたのが加賀繡の源流だ。江戸時代には藩主の陣羽織や奥方らの着物の装飾にも用いられた。刺繡の着物の、織にも染にもない魅力は、見る角度によってユアンスを変える立体感と絹糸の光沢にあるという。その魅力を最大限に引き出したのが、黒地に墨

黒の刺繡を施したこの道行コートだ。洋花風にアレンジした桜の刺繡が贅沢に背を飾り、粋でありながら華やかさも併せ持つ。コーディネートのにしやすさも魅力だ。

今井福枝氏は、前田利家公着用「鍾馗（しょうき）陣羽織」の復元にも携わった名匠。最高齢の伝統工芸士として、繊細で気品の高い加賀繡の作品を創作し続けている。

伝統工芸士 今井 福枝 作
Master of traditional crafts Fukue Imai

みちゆき
「道行コート」

Kimono coat

¥262,500

ショップ No. 24 (ぬいの今井) P52 [マップ P54]

Imai Embroidery



伝統工芸士 葎ヶ浦 悦子 作
Master of traditional crafts Etsuko Yoshigaura

「紅白椿の香合」

Incense cases with embroidered red and white camellias

H40 × W75 × D60mm ¥21,000

ショップ No. 22 (加賀繻「繭鳥」) P52 [マップ P54]

Kaga embroidery workshop "Mayudori"

「貝合せ」は平安時代に始まった遊びであり、現在でも雛祭りに飾られたり、着物に描かれるなど縁起物として愛されている。

伝統工芸士であり加賀繻「繭鳥(まゆどり)」を主宰する葎ヶ浦悦子氏が創作するのは、貝合せの香合である。一針一針丁寧に手刺繍を施した縮緬で蛤をくるみ、中に漆を施して仕立てており、まさにこの世にひとつ限りのものとなっている。意匠のモチーフは紅一休と白玉の椿の花。葎ヶ浦作品にしばしば登場する椿は、工房の名をとって「繭椿」と呼ばれている。

現在工房では葎ヶ浦氏の下、伝統工芸士を目指す弟子たちが切磋琢磨し、より高い「繻い」の技の修得に努めている。東京の百貨店より企画展の依頼も相次いでいる。



絹

糸や金糸で施された春夏秋冬を感じさせる古帛紗には、伝統の技法を生かし、創作された作者の手の温かきがある。

刺繍家として活躍する傍ら、美術大学で講師を務める宮越仁美氏。金沢の秋の風物詩である兼六園大茶会にも、毎年、お茶道具の取り合わせに創作心をめぐらせながら、ものづくりに励む。

「使うことを前提に意匠を考えるが、技法の一番美しいところをうまく表現することが出来れば」と宮越氏。

四季を感じる色合いと、刺繍によつて表現された絹布は、時に癒しの役割を持つ。「日常の空間に、別の空間を想定すれば、趣があると思う。そこに伝統を踏まえた新しさを追い求め続けたい」と語る。



伝統工芸士 宮越 仁美 作
Master of traditional crafts Hitomi Miyakoshi

古帛紗「瓢箪／松喰い鳥／雪」

Crape coasters with embroidery

W150 × D145mm 各 ¥7,500 ~

ショップ No. 25 (宮越仁美 繻工房) P52 [マップ P54]

Hitomi Miyakoshi:Embroidery Workshop

Sublime beauty created by seven artisans

Kanazawa Buddhist altars originated in the area that was home to the Shinshu Sect of Buddhism. They are manufactured by seven artisans who do different types of work: woodwork, temple work, carving, gold-relief lacquerware, and metal parts work. This is the reason why Kanazawa Buddhist altars are said to represent an integration of the city's various cultures.

お問い合わせ：金沢仏壇商工業協同組合 TEL.076-223-4914
Inquiries: Kanazawa Buddhist Altar Manufacturers Association
Tel.076-223-4914

KANAZAWA BUDDHIST ALTARS

金沢仏壇

かざざわぶつだん

〇三八

荘厳華麗の中に、金沢仏壇七職の精神性が昇華

真宗王国の地で発展した金沢仏壇は、金箔押しでの光り輝くような仏壇で、製作は「七職」による分業。すなわち木地、宮殿、木地彫り、箔彫り、塗り、蒔絵、金具の七つの工程で、それぞれ専門の職人が腕を振るう。金沢仏壇が金沢文化の総括業と言われる所以である。

「木爪型五福掛 ミニ仏壇」

Compact-type Buddhist altar
H805 × W560 × D485mm

五面の掛けを持ち仏閣の本殿を反映。外観は厨子（ずし）型の木爪型でデザイン的に柔らかさと親しみやすさを感じられる。



「大賀三号(70代)」

Buddhist altar No.3

H1640 × W675 × D597mm



「大賀二号(70代)」

Buddhist altar No.2

H1640 × W675 × D597mm



銭屋五兵衛の仏壇<300代>部分

江戸後期の人大野弁吉は、その多芸多才さから加賀のダ・ヴィンチとも称されていた。弁吉は指物師としても活躍しており、その仕事が仏壇の彫刻としても残っている。加賀の豪商「銭屋五兵衛」が、当時の名工達に命じて作せたと伝えられている仏壇が残っているが、写真はその仏壇の扉に彫られた弁吉の木地彫り作品である。



金 沢仏壇の最大の特徴は、豪華な蒔絵を前柱、段縁（だんぷち）、中柱、風呂の戸、引出し等広範囲に施していることにある。磨き蒔絵、高蒔絵を主体としているため全体的に渋くかつ上品な美しさを備え、変色せず拭いても剥げない。木地は耐久性を重視し、

金 沢仏壇の隆盛の背景には、蓮如上人の布教活動により庶民の間に深く浄土真宗の根が下ろされており、仏壇の需要がきわめて高かったということがある。金沢で本格的に仏壇が作られるようになったのは藩政期、三代藩主前田利常公の時代からである。利常公は、京都・大阪より大勢の名工を招いて定住させ「御細工所（おさいくしよ）」を整備し、将軍家や神社への御進物等としての多彩な美術工芸品の制作を奨励した。やがて細工所の流れをくむ職人が町に住むようになり、木地師、塗師、金具師、蒔絵師、彫刻師等として一般庶民の需用に応えるとともに、完全分業体制で仏壇の製作も行うようになったと考えられている。

骨組みはアオモリヒバを主に用いており、長年の使用が可能である。接着剤やクギを使わない「ホゾ組」で組み立てているため、50年後、100年後にも簡単に解体掃除ができる。さらに木肌を活かした一枚板の彫刻、障子の紗生地（しゃきじ）に金糸の刺繍、錆紐（さびひも）引きと呂色（ろいろ）仕上げなど、金沢仏壇は工芸技術の集大成といえ、仏教美術の域にまで到達するものも少なくない。

近

年は生活様式の変化を受けて、金沢仏壇の需要も変化している。金沢仏壇商工業協同組合でも、従来の荘厳で豪華な仏壇だけではなく、時代のニーズに合わせた新しい仏壇のあり方を模索している。「ミニ仏壇」は、限られた居住空間に適した仏壇として提案したものだ。一方で、金沢仏

壇の技術の復興と後継者育成のために、藩政時代から受け継がれる伝統技術を細部に至るまで施した仏壇「大賀」シリーズの製作にも取り組んでいる。

ま

た、組合では江戸から明治にかけての古い仏壇の調査記録を行っている。金沢は戦災を免れた地域であり、古い家屋が多数現存している。そのような家にあるこんだ彫刻、蒔絵が見られる贅沢な造りの仏壇が置かれていることがあるという。金沢仏壇の原型と思われるもの、浄土真宗以外の宗派のもの、江戸・明治時代に金沢に運ばれてきた県外産地のもの等があるが、これらのデザインを分析し、現代的なデザインと融合していく。「新デザイン1号」はこうした取り組みの中で生まれた、これからの時代を見据えた仏壇である。

「新デザイン1号 (70代)」

Newly designed Buddhist altar No.1
H1670 × W690 × D620mm



金具師のこだわりは 手打ち技法

金沢仏壇には「仏壇七職」という呼び方があり、木地、宮殿、箔彫り、木地彫り、塗り、蒔絵、金具という、まさに七つの手技による総合工芸である。その中の一つに金具があり、銅合板をタガネやヤスリを使った伝統的な手打ち技法で精巧に仕上げられている。



蒔絵師が求めるのは 格調の高さ

木地師がいて、木地に漆を塗る塗師がいて、そして華麗で厳かな加飾を施す蒔絵師がいる。さらに金箔工芸や、漆器の世界でも技を競い合う蒔絵だが、仏壇においてはひときわ格調の高さを競う。



希少伝統工芸

きしようでんとうこうげい

希少な輝きの中に、確かな美が宿る

加賀毛針、茶の湯釜、銅鑼、琴、金沢和傘、三弦、加賀水引、二侯和紙、加賀象嵌、竹工芸、加賀提灯、桐工芸。金沢には希少伝統工芸と呼ばれる工芸分野が多数ある。「希少」という言葉は、その希なる美しさ、技術の高さを称える言葉でもある。

RARE TRADITIONAL CRAFTS

Beauty resulting from superb craftsmanship

Kanazawa has a wide variety of traditional handicrafts such as Kaga fishing flies, tea ceremony pots, gongs, Japanese paper umbrellas, Japanese harps, paper strings for decoration, Futamata paper, incrustation, bamboo crafts, paper lanterns and paulownia crafts. They are highly evaluated for their rare beauty and superior manufacturing techniques.

茶

の湯が盛んな金沢では、数々の茶道具の名品が創作されている。宮崎家は、加賀藩主の御用釜師として寛文年間より続く家系。現在十四代宮崎寒雉氏が、茶人に好まれる釜づくりに徹し、伝統ある寒雉釜の重厚さを受け継いでいる。初代が指導を受けたことから千仙叟好みの侘びた釜や代々家元好みの釜のほか、真形のように伝統的な釜も製作する。この真形釜は地肌に霰模様を入れ、松と梅をあしらっている。

定番とされる茶の湯釜の種類は数多くあり、さらに時代に応じて新しいものが生まれている。形状や意匠に制約が多い釜だが、寒雉氏は「見て趣があり、エスプリが感じられるものを作りたい」と、さらなる創作意欲を見せている。

宮崎 寒雉 作
Kanchi Miyazaki

あられしんなりがま
茶の湯釜「霰真形釜」

Tea ceremony pot

φ 250 × H220mm ¥1,800,000

ショップ No. 11 (金沢・クラフト広坂) P53 [マップ P55]

Craft shop "Kanazawa Craft Hirosaka"



炭谷 加葉 作

Kayo Sumiya

ぞうがんこうろ

象嵌香炉「牡丹」

Peony-shaped incense burner with inlay decoration

φ 90 × H40mm ¥78,000

ショップ No. 11 (金沢・クラフト広坂) P53 [マップ P55]

Craft shop "Kanazawa Craft Hirosaka"

炭

谷加葉氏は、二〇〇六年に金沢美術工芸大学大学院を修了し、人間国宝中川衛氏に師事する新進気鋭の女流作家である。牡丹の花をモチーフにしたこの香炉は、加賀象嵌の持つ繊細さにモダンな感覚を盛り込んだ作品。組立て式となっているのが特徴で、

各パーツには表裏色が異なる素材で象嵌が施されており、組立て方によって印象が変わる。作品づくりの技術のひとつとして象嵌があるのではなく、象嵌の本質的な美を見せる作品づくりをしたいと、象嵌の正統にこだわる炭谷氏。その一方で、従来の通念にとらわれず、同世代の共感を得られる身近な提案を通して、加賀象嵌の存在をアピールしていきたいと柔軟な姿勢を見せている。

とらわれず、同世代の共感を得られる身近な提案を通して、加賀象嵌の存在をアピールしていきたいと柔軟な姿勢を見せている。

桐工芸「天然火鉢」

Brazier made of paulownia

H200 × W370 × D300mm ¥210,000

ショップ No. 12 (桐漆工芸 上坂) P53 [マップ P54]

Paulownia crafts Utsaka

桐 漆工芸上坂は昭和十五年までその伝統技術を守りつつ、時代のニーズに合わせた桐工芸品を提案している。金沢桐工芸の系譜は、江戸から昭和初期まで暖房の実用調度として愛用されていた桐火鉢より発祥している。良質の桐材と轆轤(ろくろ)木地師の技、さらに加賀蒔絵の伝統に支えられ、優れた耐湿性、耐火性をいかした箱物、木目の美しさに華麗さを加えた菓子器や花器、室内小物も生産されている。

写真は桐材特有のぬくもりのある木目と焼き色に、華やかな加賀蒔絵が目を引き火鉢。ワインクーラーとしても使用できるが、やはり近年は暖をとるための“用のもの”として再評価が高まっている。



岩本清商店

Iwamaoto Kiyoshi Shoten

桐工芸「ちょこっとトレイ 千鳥」

Paulownia tray with bird design

W240 × D120mm ¥4,200

ショップ No. 40 (金沢桐工芸 岩本工房) P53 [マップ P55]

Kanazawa paulownia crafts Iwamoto Workshop

岩

本清商店は大正二年創業の桐工芸工房で、市内に直売店「岩本工房」も構えている。「ちょこっとトレイ」は“お茶とお菓子”あるいは“お酒とおつまみ”を乗せて、おもてなしのシーンをさりげなく演出できるようにと創作されたもの。ツヤがないので等身大の暮らしの中で愛用できる。伝統工芸に“今”のセンスと新たな風を呼び込む商品として、発売当初から全国誌で取り上げられるなど注目を集めている。

愛らしい千鳥の蒔絵は、砥の粉と漆によるペースト状の錆で木地から盛り上げて加飾。こっくりした桐の焼き肌に映えている。蒔絵はバリエーションがあるほか特注も受け付けている。また蒔絵のないシンプルなタイプも揃っている。

和菓子提供：村上製菓所



金沢九谷

金沢九谷振興協同組合

8 片岡光山堂 [マップ P54]	〒920-0936 金沢市兼六町 2-1 [URL] shop-kanazawa.jp/shop.php?shp=151&cald=&calm=w&mll=35	☎ 076-221-1291	4~10月/ 9時~18時 無休 11~3月/ 9時30分~17時 水曜休
9 九谷焼 鑓木商舖 (金沢九谷焼ミュージアム併設) [マップ P55]	〒920-0865 金沢市長町 1-3-16 [E-mail] kanazawa@kaburaki.jp [URL] www.kaburaki.jp/	☎ 076-221-6666	9時~22時 年中無休 (不定休)
10 九谷巴商会 [マップ P54]	〒920-0936 金沢市兼六町 2-13 [E-mail] akira23@guitar.ocn.ne.jp [URL] shop-kanazawa.jp/shop.php?shp=146&cald=&calm=w&mll=35	☎ 076-231-0474	10時~18時 無休
11 九谷焼 長寿堂 [マップ P55]	〒920-0961 金沢市香林坊 2-4-5 [E-mail] honten@chojudo.com [URL] www.chojudo.com/	☎ 076-221-1822	10時~19時 水曜休
12 九谷焼 諸江屋 [マップ P55]	〒920-0981 金沢市片町 1-3-22 [E-mail] kutani@moreoya.com [URL] www.moreoya.com/	☎ 076-263-7331	8時~20時 水曜休
13 黒龍堂 [マップ P55]	〒920-0853 金沢市本町 1-5-3 リファール 1F [E-mail] kutani@kokuryudo.com [URL] www.kokuryudo.com/	☎ 076-221-2039	9時~19時 火曜休 (祝日を除く)
14 順風堂 [マップ P55]	〒920-0904 金沢市下近江町 40 [E-mail] webmaster@junpudo.co.jp [URL] www.junpudo.co.jp/	☎ 076-231-2700	9時~18時30分 火曜休 (祝日の場合は営業)
15 北山堂 [マップ P55]	〒920-0962 金沢市広坂 1-2-33 [E-mail] office@hokusando.co.jp [URL] www.hokusando.co.jp/	☎ 076-231-5288	9時30分~18時30分 月曜休

金沢九谷振興協同組合(九谷焼 鑓木商舖内) ☎ 076-221-6666 [E-mail] kanazawa@kaburaki.jp

金沢箔

石川県箔商工業協同組合

16 (株) 今井金箔 [マップ P54]	〒920-0968 金沢市幸町 7-3 [E-mail] info@kinpaku.co.jp [URL] www.kinpaku.co.jp/	☎ 076-223-8989	9時30分~18時 日祝休
17 かなざわかたニ [マップ P54]	〒920-0902 金沢市尾張町 2-16-80 [E-mail] office@katani.co.jp [URL] www.k-katani.com/	☎ 076-231-1566	9時~17時 無休 (12月30日~1月3日休)
18 (株) 金銀箔工芸さくだ [マップ P54]	〒920-0831 金沢市東山 1-3-27 [E-mail] kinpaku@goldleaf-sakuda.jp [URL] www.goldleaf-sakuda.jp	☎ 076-251-6777	9時~18時 無休
19 金箔工芸 田じま [マップ P55]	〒920-0855 金沢市武蔵町 11-1 2F [E-mail] info@tajima-kinpaku.co.jp [URL] www.tajima-kinpaku.com/	☎ 076-263-0221	10時~17時30分 火曜休 (夏季、冬期休あり)
20 (株) 箔一本店 箔巧館 [マップ P54]	〒921-8061 金沢市森戸 2-1-1 [E-mail] info@hakuichi.co.jp [URL] www.hakuichi.co.jp/	☎ 076-240-0891	9時~18時 年中無休 (1月1日は休館)
21 箔座本店 [マップ P54]	〒920-0843 金沢市森山 1-30-4 [E-mail] info@hakuza.co.jp [URL] www.hakuza.co.jp/	☎ 076-251-8941	9時~18時 年中無休

石川県箔商工業協同組合 ☎ 076-257-5572 (土日祝休)

金沢伝統工芸 ショップガイド

S h o p G u i d e

お気に入りの逸品を選ぶ時間をゆっくり楽しむ。
旅の折に訪ねたい、伝統工芸のショップガイド。(50音順)

加賀友禪

協同組合加賀染振興協会

1 加賀友禪伝統産業会館 [マップ P54]	〒920-0932 金沢市小將町 8-8 [E-mail] info@kagayuzen.or.jp [URL] www.kagayuzen.or.jp/	☎ 076-224-5511	9時~17時 水曜休
2 長町友禪館 [マップ P55]	〒920-0865 金沢市長町 2-6-16 [E-mail] mail@kagayuzen-club.co.jp [URL] www.kagayuzen-club.co.jp/	☎ 076-264-2811	9時~17時 無休 (年末年始のみ休)
3 加賀友禪 毎田染画工芸 [マップ P55]	〒920-0964 金沢市本多町 3-9-19 [E-mail] info@maida-yuzen.com [URL] www.maida-yuzen.com	☎ 076-221-3365	9時~17時30分 日祝休

協同組合加賀染振興協会(加賀友禪伝統産業会館内) ☎ 076-224-5511 [E-mail] info@kagayuzen.or.jp

金沢漆器

金沢漆器商工業協同組合

4 赤地漆器店 [マップ P54]	〒920-0805 金沢市小金山 12-2 [E-mail] info@akajidilaki.com	☎ 076-252-8939	9時~19時 日祝祭休
5 (株) 石田漆器店 [マップ P55]	〒920-0981 金沢市片町 1-7-21 [E-mail] ishida@po3.nsknet.or.jp [URL] www3.nsknet.or.jp/~ishida/	☎ 076-261-2364	10時~19時 水曜休
6 (株) 能作 [マップ P55]	〒920-0962 金沢市広坂 1-1-60 [E-mail] nosaku@kanazawa.gr.jp [URL] www.kanazawa.gr.jp/nosaku/	☎ 076-263-8121	10時~19時 水曜休
7 (株) 和幸 [マップ P54]	〒921-8163 金沢市横川 7-43 [E-mail] wakou@nsknet.or.jp	☎ 076-247-4455	9時~18時 日祝、 第2、4土曜休

金沢漆器商工業協同組合(金沢商工会議所内) ☎ 076-263-1157 (土日祝休)

35 はやし仏壇店 [マップ P55]	〒 921-8033 金沢市寺町 5-5-17 ☎ 076-241-8690 [URL] www.geocities.jp/hayashi_butsudan/	9時～18時 日曜休
36 三島仏壇 [マップ P55]	〒 920-0862 金沢市芳斉 2-4-2 ☎ 076-221-8015	9時～18時 日曜休
37 森田仏壇店 [マップ P55]	〒 921-8031 金沢市野町 3-2-38 ☎ 076-241-1375 [URL] shop-kanazawa.jp/shop.php?shp=453&cald=&calm=w&mll=16	8時～20時 不定休
38 (有) 山田仏具店 [マップ P55]	〒 920-0854 金沢市安江町 13-32 ☎ 076-221-2306 [E-mail] info@yamadabutsuguten.co.jp [URL] yamadabutsuguten.co.jp/	9時～19時 火曜休 (祝日を除く)
39 (株) 米永仏壇 [マップ P54]	〒 920-0058 金沢市示野中町 1-10 ☎ 076-221-1930 [URL] w2223.nsk.ne.jp/~yonenaga/	9時～18時 木曜休

金沢仏壇商工業協同組合 ☎ 076-223-4914 [E-mail] info@kanazawa-butsudan.or.jp

希少伝統工芸

40 金沢桐工芸 岩本工房 [マップ P55]	〒 920-0854 金沢市安江町 15-43 ☎ 076-231-5421 [E-mail] info@kirikougei.com [URL] www.kirikougei.com/	10時～18時30分 火曜休
41 金沢・クラフト広坂 [マップ P55]	〒 920-0962 金沢市広坂 1-2-25 金沢能楽美術館内 ☎ 076-265-3320 [E-mail] info@crafts-hirosaka.jp [URL] www.crafts-hirosaka.jp	10時～18時 月曜休 (祭日の場合翌日休) 年末年始 12月29日～1月1日休
42 桐漆工芸 上坂 [マップ P54]	〒 920-0936 金沢市兼六町 2-15 ☎ 076-264-1511	10時～17時 火曜休
43 (有) 津田水引折型 [マップ P54]	〒 920-0935 金沢市石引 2-2-5 ☎ 076-224-9023 [E-mail] info@mizuhiki.jp [URL] www.mizuhiki.jp/	10時～18時 (土曜は14時まで) 日祭休
44 広瀬桐工芸 [マップ P55]	〒 921-8022 金沢市中村町 30-20 ☎ 076-241-2544	8時～17時 土日祝休
45 目細八郎兵衛商店 [マップ P55]	〒 920-0854 金沢市安江町 11-35 ☎ 076-231-6371 [E-mail] webmaster@meboso.co.jp [URL] www.meboso.co.jp	9時～18時 火曜休

その他

大樋焼本家十代長左衛門窯 46 大樋美術館 [マップ P54]	〒 920-0911 金沢市橋場町 2-17 ☎ 076-221-2397 [URL] www.ohimuseum.com	9時～17時 無休
47 金沢能楽美術館 [マップ P55]	〒 920-0962 金沢市広坂 1-2-25 ☎ 076-220-2790 [URL] www.kanazawa-noh-museum.gr.jp	10時～18時 月曜休(祭日の場合翌日休) 年末年始休 ※展示替などで休館する場合あり

加賀繡

石川県加賀繡協同組合

25 加賀繡「蘭鳥(まゆどり)」 [マップ P54]	〒 920-0367 金沢市北塚町西 66-1 ☎ 076-249-4989 [URL] www.kaganui.or.jp/studios/yoshigaura.html	10時～16時 土日祝休
28 小林刺繡舗 [マップ P54]	〒 921-8015 金沢市東力 1-130 ☎ 076-291-5150 [E-mail] hanamarumon@nifty.com [URL] www.kaganui.or.jp/studios/kobayashi.html	9時～17時 年中無休 (盆8月14日～16日休) ※実演体験は基本的に休み
29 めいの今井 (有) 今井刺繡 [マップ P54]	〒 920-0967 金沢市菊川 2-10-12 ☎ 076-231-7271 [URL] www.kaganui.or.jp/studios/imai.html	9時30分～18時 年中無休
29 宮越仁美 繡工房 [マップ P54]	〒 921-8034 金沢市泉野町 1-12-12 ☎ 076-243-2992 [E-mail] mie_sniff0213@yahoo.co.jp [URL] www.kaganui.or.jp/studios/miyakoshi.html	不定休

石川県加賀繡協同組合(小林刺繡舗内) ☎ 076-291-5150 [E-mail] hanamarumon@nifty.com
※上記☎～☎の商品は☑金沢・クラフト広坂でも販売しております。

金沢仏壇

金沢仏壇商工業協同組合

26 (株) 池田大佛堂 [マップ P55]	〒 920-0854 金沢市安江町 5-7 ☎ 076-222-5550 [URL] www.kaga-noto.or.jp/Noren01/index1.html	9時～18時 火曜休
27 今村佛壇店 [マップ P54]	〒 921-8055 金沢市西金沢新町 178-1 ☎ 076-249-1366	9時～19時 木曜休
28 卯野屋仏壇店 [マップ P55]	〒 920-0854 金沢市安江町 15-44 ☎ 076-263-9570 [E-mail] nobuhikouno@ezweb.ne.jp [URL] www.shop-kanazawa.jp/shop/unoyabutsudanten	10時～18時30分 火曜休
29 (有) 大竹仏壇製作所 匠楽 [マップ P54]	〒 921-8046 金沢市大桑町 10 街区 1-9 ☎ 076-244-4069 [E-mail] otkudento@rudy.ocn.ne.jp [URL] www.kanazawa-cci.or.jp/easycoupon/cgi-bin/detail.cgi?id=0045&rand_text=0039,0078,0036,0097	9時30分～20時 第2,4火曜休
30 金沢仏壇商工業 協同組合 [マップ P55]	〒 920-0855 金沢市武蔵町 8-2 ☎ 076-223-4914 [E-mail] info@kanazawa-butsudan.or.jp [URL] kanazawa-butsudan.or.jp/	9時～17時 土日祝休
31 北村仏壇店 [マップ P54]	〒 921-8815 野々市町本町 5-4-7 ☎ 076-248-3362	8時～18時
32 (株) 澤田仏壇店 [マップ P55]	〒 920-0854 金沢市安江町 3-15 ☎ 076-221-2212 [URL] www.kanazawa-cci.or.jp/shinise/stores/sawada.html	9時30分～18時30分 火曜休
33 塗師岡仏壇店 [マップ P54]	〒 920-0843 金沢市森山 2-1-29 ☎ 076-253-2201	8時30分～18時 木曜休
34 塗師岡仏壇店 [マップ P55]	〒 921-8031 金沢市野町 1-2-36 ☎ 076-241-0795 [URL] www.kanazawa-cci.or.jp/shinise/stores/nushioka.html	平日10時～18時 土日祝13時～18時 日曜休

金沢伝統工芸 ショッピングマップ

Shopping Map

